

これまでの取り組みとこれから

1 ① 暮らしに役立ち、生活向上のための支援につながる事業をすすめました。

共同購入や夕食宅配事業では、食を通じた健康づくりとともに、見守り活動や買い物弱者支援、高齢者や障がい者への対応、子育て世帯への取り組みをすすめました。ココストーション内のコミュニティスペースを活用した交流の場づくり、フードサポート・フードドライブ事業は、環境と福祉の視点で支援活動を継続しています。コープサービスとっては、葬祭事業や住宅リフォーム、家事手伝いサービスをなどの事業展開、共済の推進では、コープのケガ保険・介護保険・三大疾病保険のおすすめを行うことで総合的な補償提案につながり、助け合いの輪が広がりました。



コロナ禍の影響で宅配事業への需要の高まり等もあり、2020年以降の供給高は急激に伸びました。一方で、人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの崩壊、人と人のつながりの希薄化などは、コロナ禍を経て、以前にも増してより一層深刻な課題となっています。アフターコロナを見据え、「福祉の視点ですべての事業活動を捉える」というこれまでの基本的考え方は今後も継承しながら、組合員の暮らしを支え、地域づくりにつながる事業を創出していくことが求められています。

2 ② 助け合いの精神を育み、一人一人の主体的な学びや参加が広がる活動をすすめました。

暮らしのサポート総合窓口を核とした地域諸団体との連携や相談窓口としての取り組み、暮らし助け合いの会では、運営体制の見直しや募金などの新たな取り組み、食育活動、エシカル消費の推進では「SDGsエシカルチャレンジ」や「エシカルフェスタ」の実施などとともに、今週の逸品活動により、エシカル関連商品は、多くの利用につながっています。平和の取り組みは、「継承」の視点で日本ユニセフ協会ほか、様々な団体と連携しながらすすめました。脱炭素社会へ向けた取り組みでは、事業所におけるLED化や太陽光発電設置、配送コースの見直しによる車両燃料削減を行いました。また、電気小売事業の開始に向けて検討を継続しています。自然共生・循環型社会に向けては、リサイクル活動、ペーパーレス化、ふなおか共生の里、コープ虹の森の活動にも取り組んでいます。



SDGsやエシカル消費をキーワードに、長年にわたって鳥取県生協が取り組んできたことをあらためて捉えなおしながら、様々な活動を展開してきましたが、参加の広がりや理解を広げる取り組みには多くの課題があります。例えば産直事業、あるいは厳しい状況にある酪農畜産業を今後も維持・発展させていくために、生産者と消費者（組合員）・生協、それぞれの立場で何ができるのか、つくる責任つかう責任をお互いに考え実践していける社会づくりという視点での活動が求められますし、そのためにも、学ぶ、伝える、広げる取り組みをさらに強化する必要があります。

3 ③ 人と人のつながりを大切に、地域との協同・ネットワークづくりをすすめました。

鳥取県との地域包括連携協定を軸としながら、見守り、災害時、子育てに関する連携協定を県内市町村と締結し、様々な活動に取り組んでいます。また、フードサポート事業や災害ボランティアを通じた社会福祉協議会との連携、米子市永江地区自治会と連携し生活支援活動、はじめてばこに関する地元メディアとの連携等もすすめています。



第8次中期計画（2016～2020年）では「人と参加とネットワークを大切に地域社会づくり」をテーマに掲げました。以降、地域の様々な課題解決に向けては、生協だけではなく、行政や地域諸団体とのネットワークを大切に一緒に取り組むことを大切にしてきました。その方向性は、2030年に向けてますます重要になるとの認識に立ち、これまでの協同・ネットワークをさらに発展・進化させるとともに、新たなニーズにも対応していくことが重要です。

4 ④ 「福祉」の実現を支える人材育成、組織・職場風土づくりをすすめました。

コロナ禍により活動が制限される中での組合員活動では、創意工夫を重ねながら参加の輪が広がっています。配達時での見守り活動などの実践事例共有などで、地域づくりの担い手としての生協職員を目指した人材育成の取り組みをすすめました。また、コンプライアンス経営に向けた取り組みを組織全体で行いました。障がい者雇用率の上昇や、誰もが安心して働ける職場を目指して、育児休業・介護休業制度の見直しや福利厚生充実を図りました。



組合員活動については、人口減少や女性の就業割合の向上など、様々な情勢変化の中で、参加のあり方や担い手の確保といった課題があります。「2030年に向けた組合員参加のあり方に関する提言（日本生協連）」を踏まえつつ、参加がもたらす価値を共有しながら、未来につながる組合員活動のあり方を議論していく必要があります。誰もが動きやすい職場環境づくりについては、職員一人一人の多様性が尊重されること、また、職員の健康を経営的な課題として捉える「健康経営」の考え方を今後も大切にしつつすすめていきます。

鳥取県生協の

SDGs アジェンダ

Sustainable Development Goals
2030年に向けての「行動指針」

みんなが **幸せに**
くらする
社会を目指して

SDGs（持続可能な開発目標）は
よりよい世界への「道しるべ」



鳥取県生協では、1950年の創立以来、思いやりでつなぐ人間らしい豊かなくらしの創造に向けて、様々な取り組みをすすめてきました。その理念は、「誰一人取り残さない」というSDGsが目指すものと重なり合っています。鳥取県生協としてのこれまでの成果をあらためてSDGsとの関係で整理し、今後の行動指針を設定して2030年に向けた取り組みをさらに強めていくために「鳥取県生協のSDGsアジェンダ」を策定しました。

 鳥取県生活協同組合

鳥取県生協のSDGsアジェンダ

スローガン「みんなが幸せにくらせる社会を目指して」のもと、「福祉」「エシカル」「環境」「平和」をキーワードに具体的なアクションプランとして4つの行動指針で構成しています。
また、共通の基本概念として「パートナーシップで目標を達成しよう」を掲げています。

行動指針 01 福祉のSDGs

一人一人が自分らしさを発揮し、
お互いに認め合い、助け合いながら
よりよい暮らしを共に創造し、
みんなが幸せにくらせる社会を目指します。



対応するSDGs

- 鳥取県生協が、暮らしと健康を支える生活インフラとして地域に欠かせない存在であり続けるために、自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、誰もが安心して利用しやすい事業やサービスを創るための取り組みを継続し地域社会づくりに参加します。
- “参加がもたらす価値”を共有し広げながら、組合員一人一人の多様性を尊重し支え合える組合員活動を目指します。
- 職員みんなが健康で元気にそれぞれの個性を認め合いながら活躍できる職場をつくりまします。

行動指針 02 エシカルのSDGs

持続可能な生産と消費のために、
つくる責任つかう責任を考えて
行動し、商品とくらしのあり方を見直していきます。



対応するSDGs

- 人や社会、地域、環境に配慮した商品の利用普及や理解を広げる活動をすすめる、「エシカル消費」を推進していきます。
- 生産者・産地やメーカー・取引先と組合員・職員との交流を深め、持続可能な生産と消費に向けて、それぞれの想いや責任を共有実感できる取り組みをすすめます。
- 健康づくりの視点で、安心安全な商品づくりとともに、食の作り手への感謝の気持ちや元気な体づくりを育む食育の活動をすすめます。



対応するSDGs

行動指針 03 環境のSDGs

豊かな地球環境を未来のこどもたちへ
つなげていくために、自然と共生し、
脱炭素と循環型の社会を目指します。

- 省エネルギーや再生可能エネルギーの開発・導入等を通して、地球温暖化防止と持続可能な地域づくりに貢献します。鳥取県生協の事業活動から排出される温室効果ガス(CO2)を、2030年度に2013年度比で46%削減します。
- 食品ロスや使い捨てプラスチック削減の取り組みをすすめます。また、共同購入のカタログ、牛乳パック、商品袋などの回収リサイクル運動を促進します。
- 組合員とともに環境保全活動を推進し自然共生社会を目指します。



<スローガン>

みんなが幸せに
くらせる
社会を目指して



17 パートナーシップで目標を達成しよう

パートナーシップで
目標を達成しよう



対応するSDGs

行動指針 04 平和のSDGs

世界から飢餓や貧困をなくし、
戦争や核兵器のない
世界平和の実現を
目指す活動をすすめます。

- 世界中の飢餓や貧困などの様々な問題についての理解を深め、ユニセフ協会などと連携して世界の子どもたちを支援します。また、生活困窮者や子ども食堂への支援に取り組みます。
- 核兵器廃絶、被爆・戦争体験継承の取り組みを通じて、日本国憲法の基本原則である平和主義を大切に平和な社会を目指す活動をすすめます。
- 自然災害などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え防災・減災の学びや自治体・諸団体との連携をすすめます。